

埼玉県の学校給食で提供している

牛乳のストローを廃止しよう

～自然に地球に貢献！～

2022/09/27



画像: イラストACより

目次

- ・現状①②
- ・矛盾点
- ・代替え案A / 代替案B
- ・期待できる効果
- ・まとめ

現状①

小学校で環境教育を受けて、環境問題に対する知識は向上したものの、身の回りで環境破壊が進んでいるという実感を持ちにくいのが現状です。

近年では、ウミガメの鼻にストローが刺さっていたり、打ち上げられたクジラのお腹から大量のプラスチックが出てきたり、プラスチックゴミがウミガメなど海の生物に大きな影響を与えています。この環境問題に子どもの頃から意識を持ち、子どもの頃から自然に社会に貢献している(環境保護活動をしている)という意識付けが必要だと感じました。

現状②

令和3年度の児童数(埼玉県ホームページを参照)

埼玉県の給食を必要としている、小学生・中学生・教職員の数です。

・小学生	363,199人
・小学校教員数	20,889人
・中学生	187,395人
・中学校教員数	12,569人
合計	584,062人



画像: イラストACより

年間200日学校に通ったと計算すると、実に一年で116,812,400個のストローを消費している計算になります。

教育現場で 生じている矛盾

学校で『ゴミの削減や自然環境保護の大切さ』を教えていても、学校の給食で提供されているストローは、プラスチックゴミです。

私たち大人は、子どもたちの為にこの矛盾を取り除かなければいけません。

そして、子どもたちに胸を張って無理なく『自分たちが役に立っている』という認識が重要です。ただ止めるのは簡単です。そうではなく、『教育的』に深く考えた代替案が必要だと感じました。



画像: イラストACより

代替案A

ストローを食べる

そもそもストローを食べてしまえば、使用後のゴミを排出する量を削減することが可能です。

私はただ廃止するのではなく、給食費に数十円プラスし、食べられるストローに変更することを推奨します。

例えば、クッキーストロー。

クッキーには卵黄が使われるため、たんぱく質や脂質も摂取できます。また、小学校の給食で食べる時間に十分な30分は耐えられる構造になっています。

(※アレルギーをお持ちの方もいると考えていますので、あくまで一例です)

私自身も二人の子供を持ちますが、プラス数十円程度で貢献できるのであれば、喜んで増額します。

代替案B

循環利用できるものに

ストローを捨てるのではなく、循環利用できるストローに変えれば、ゴミを排出する量を削減することが可能です。私はリサイクルの観点から、米粉を用いたストローに注目しました。米粉ストローは、舌触りがよく、使ったあとは茹でたり焼いて食べたり、**肥料**にも出来ます。

小学校では、植物を育てている学校がほとんどです。植物の肥料として活用でき、捨てることなく循環利用できる。このような取り組みが、教育現場に必要なのではないかと考えました。



画像：イラストACより

期待できる効果

令和3年度の児童数(埼玉県ホームページを参照)

埼玉県の給食を必要としている、小学生・中学生・教職員の数です。

・小学生	363,199人
・小学校教員数	20,889人
・中学生	187,395人
・中学校教員数	12,569人
合計	584,062人

先ほどもご紹介したデータになりますが、埼玉県の給食に必要な人数は約584(千)人です。

ストロー1本当たりの重量が0.5グラムとし、年間200日給食を必要とすると、約58トンにもなります。この量が毎年捨てられ続けている計算になります。ストローを廃止するだけで、環境破壊を遅らせることも可能です。

- ・子どもたちの栄養価アップ
- ・日本の環境保護
- ・リサイクルの意識付け

など、利点は数多く上げられます。

結びに

日本のプラスチックゴミの量は世界で2番目に多い国です。そして主なゴミ処理方法は、焼却です。実に80%が直接償却されています。皆で無理なくゴミを減らし、子どもの頃から『自然に』リサイクルを学べ、自分が社会に貢献できていると自覚を持てること、そのような教育環境ができれば、より意識が高まりゴミの削減、環境保護への意識が向上すると思いました。

大切なことは、**理解し自分に何ができるのか考え、行動すること**だと思います。
子どもたちの成長に、一歩貢献できていれば幸いです。

～自然に地球に貢献！～